

## 2月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和5年2月6日(月)

午後1時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 小山正文 委員 宮下温子  
委員 小松小百合 委員 高野羊子  
出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 佐々木英明  
筑北中学校校長 臼井伸明 教育長 加瀬浩明  
次長 臼井太津男 子育て支援コーディネーター 高野智弘  
主事 龍頭詩織

### 一 開会(加瀬教育長)

定刻となりました。令和5年2月の麻績村教育委員会定例会を始めます。  
よろしくお願いたします。

### 二 教育長挨拶(加瀬教育長)

### 三 報告

#### 1. 教育長報告(近況報告、市町村教委連絡会について報告)

**教育長:**お願いたします(以下、資料に沿って説明)。

**臼井次長:**ただいまの教育長報告について、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、続いて子育て支援コーディネーター報告をお願いたします。

#### 2. 子育て支援コーディネーター・保育園長・学校長報告

##### (1)子育て支援コーディネーター報告(近況報告)

**高野CO:**お願いたします(以下、資料に沿って説明)。

**臼井次長:**ただいまの子育て支援コーディネーター報告について、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、続いて保育園長報告をお願いたします。

## (2) 保育園長報告（近況報告、第2グラウンドの利用について報告）

**塚原園長:** お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**白井次長:** ただいまの保育園長報告について、何かございますでしょうか。

**白井校長:** 園長先生から「これから散歩に行きます、学校に入って良いですか」と話を聞いて中学校にいらっしゃって、写真見ると肋木（ろくぼく）にこれだけ高く登ったりして遊んでいましたが、保育園の園庭だと狭い気がするし、けやき公園も良いけど、学校ならそれよりももっと広くて平らで、子どもたちいくらでも遊べると思うので、どんどん来ていただいて活用していただければ良いかなと思います。また、できたら危険がないように環境整備をしていただいて、小さい子どもたちが自由に遊べる場所が麻績村で1つあれば、振興計画にも子育てのことが書いてあるので、そういうことがアピールになっていくのではないかと思います。

**塚原園長:** ありがとうございます。中学校に入って遊ばせてもらったんですが、第2グラウンドは柵があってすごく安全で、アスファルト舗装された走れるコースがあるので、子どもたちはすごく喜んでます。春には桜が咲いていたりたんぽぽも摘めたりして、浅い側溝では「虫がいるのではないかと」虫探しもできたりするので、あの場所を芝生にしたりして、安全に誰でも行って遊べますという風にできたら良いかなと思います。中学校の敷地なので、どんな風に利用するのかわからないのですが、第2グラウンドは4月だと大きい子どものクラスしか行かない遠い距離ですが、後半は小さい子どもも遊ばせてもらえる良い広場だと思いますので、整備していただければありがたいです。今でも十分安全な場所で、クローバーが一面に咲いているので、転んでも痛くないですし、第2グラウンドように未就園のお母さんたちが行かれる広場があると良いかなと思います。園庭が今は雪でぐちゃぐちゃしているんですが、第2グラウンドに行くとぐちゃぐちゃしていないので、年長さんがサッカーボールを持ってサッカーをしに行きました。そんな風に遊ばせていただいているので、皆が利用できる広場になると良いかなと、白井校長先生の話聞いて思いました。

**白井次長:** 今話に出た第2グラウンドですが、筑北村との学校組合が解散した時に、そこのところが入れ違いの部分があり、最終的には管理は麻績村となっはいるんですが、実際に中で遊んでいただくのは全然問題ないんですが、何か建てるとかという話になった際は筑北村との確認事項が必要になってくると思います。今の段階で使っていただくことは全然問題ないです。

**小松委員:** バasketゴールは設置になってしまいますかね。

**白井次長:** バasketゴールは移動式のものですか。

**白井校長:** できれば固定した方が良いでしょう。

**白井次長:** その程度は特には問題ないと思うんですが。

**白井校長:**第2グラウンドのただっ広いところを、柵をもう少し丁寧にして、子どもたちが怪我をしないようにして、人工芝か芝をもう少し整備するのが、筑北村が「それはダメですよ」というレベルになっていけば何も話できなくて、中学校用務員が草を刈っているだけで終わってしまうと思うので、一生あの場所は何も変わらないで行くということなんでしょうか。

**白井次長:**そうとも限らないので、最終的にある程度の構想がまとまったときに筑北村のほうに投げて確認をしてとなります。

**白井校長:**現時点ではあそこのところを遊びやすくするくらいである程度整備して、実際のところクローバーはあるけど、雨降るとぬかるんでぐちゃぐちゃになるので、それも子どもたちの教育には良いかもしれないけど、フラットである程度ぬかるまないようなくらいに整備するのを「ダメ」と言われていしまえば、あそこは空白の何もない場所になってしまうというか、地図にない場所みたいになってしまうと思うので、やるやらないは別として、どういうことならして良いか、気を使わなきゃいけないのか知りたいです。あそこをどうしろという訳ではないですが、とりあえず広いスペースがあれば良いということですよ。

**塚原園長:**そうですね。

**教育長:**基本的に草を刈る程度は良いけど、整備するとか柵作るとか何らかの形で手を加えることに関しては、筑北村と「こういうことをやりたい」という話をして協議をした上でやらなければならぬというレベルだと思います。

**白井校長:**でもこれはそういう話をするレベルではないという感じですか。実際ここでやるという話になって、費用が発生するという段階になったら協議が必要になると思いますが、麻績村でやるという話にならなければ、一生あそこのところは協議にのらないということですよ。

**白井次長:**今教育長がおっしゃったように、そこにどのように手を加えるかということもあると思いますが、柵を作るとか、今の半分芝生半分雑草みたいな状態を人工芝化するとかということになると、ある程度の計画の中で進めなければならないということもあるんですが、教員住宅の整備計画の話になるとあの場所も候補になるので、そういうことも考えるとそこだけではなくて全体的な計画あつての整備をしなければならないということもあるので、今の状況がそれほど問題なく使えているのならそれを維持していくのが良いかという気はしますが、ただそれに対する安全策等が必要ということになれば、それはしていかなければならないと思います。

**小山職務代理:**土地の所有権自体は麻績村で良いんですよ。

**教育長:**村長がいつも気にしているのは、「こちらが勝手に手を入れて向こうからケチ付けられてしまうのは良くないから、色々やる時にもよく相談してやってほしい」ということは言っています。

**白井校長:**どっちが主導なのか、今話を聞くと筑北村の方が主導っぽいので、筑北村が許可をしないとできないような状況だと何事もできないと思います。色々な行政のところでの話は当然あったりするけど、どこまで認められるのかというのは知りたいです。私はお金がないので結局村でやってもらうことになると思うんですが、あそこに例えば筑北中で子どもたちが何か「モニュメントを建てたい」と言って、あそこに大きなモニュメントを建てるとなった時に、筑北村の方で「それはダメだ」と言ってきても、子どものためだから、子どもたちがやりたいと言うんだったらやろうと私は言いますが、その場合は「ダメ」ということになるのかということなんですが、少しでも「そういうことはダメですか」とお伺いを立てなければいけないのか、最終決裁が筑北村の村長なのかどうか、最終的に麻績村の村長が「良い」と言えばできるのか、筑北村と合議でやらなければならないなら所有権はどちらなのかということになってしまうと思うので、こちらが主導権を握れるかということと微妙な場所ではあると思うんですが、「ケチ付けられる」ということは「その土地を返せ」という話になってしまうということですか。

**教育長:**要は「そのことでもめないようにしてほしい」ということで、現状結構曖昧な形で決着しているのです。

**白井校長:**50年くらい何もできないですかね。

**教育長:**「何かやるということに関しては常に向こうと協議してやってほしい」ということだけで、向こうが「いけない」と言ったから全部いけないということではなくて、協議によると思います。

**白井校長:**仮にPTA作業等でPTA予算で芝生化しようと、トラックの半分くらいは整備しますと言ったときにできるかできないか。芝生でなくともPTA作業で何かやって、あそこの場所で子どもたちのために何か施設、バスケットゴール等を寄付を集めて建てるとかしようとなった時に、「それはダメだ」と言われるのかどうか。

**白井次長:**たぶん「ダメ」ということはないと思います。現状を変えるほどではないと思いますが、一応筑北村の方にはお話をして説明をすれば「ダメ」とは言わないと思います。

**白井校長:**大体考えたことは良いということですよ。バスケットゴールを建てて良いと、教育長さんなり村長さんが良いとなれば、作っていても良いということですかね。そういうところは考えていった方が良いと思いました。

**高野委員:**とても広いスペースですよ、そういう風になると小さい子どもたちが遊べるかということ、遊べるのかもしれないけど今の状態でとても良い環境ということなので、子どもたちのために手を加えることは差し支えないと思いますし、こちらでこの環境を維持しているのです、向こうにとってはありがたいということになると思います。整備するとなると別問題になるので

お伺いを立てることになると思いますが、今の状態なら問題ないと思います。

**塚原園長:**ある程度ぬかるんでいるところもあるので、人工芝化するのもそれはそれで良いと思います。園児は十分そこで遊ばせてもらってありがたいんですが、園児ではなくとも未就園の子とかが遊ぶとなるとぬからない場所が良いと思います。皆が遊べる場所として、筑北村の人が来ても良いし、皆で遊べる安全な場所になると良いなというところも含めてお話させていただいたんですが、今の現状は全然問題ないんですが、保育園としてはありがたい、でも筑北村との話し合いというところは解決できるのかわからない状況ですが、そういった広場もあっても良いのかなと思います。けやき公園はけやき公園で作っていただいたんですが、やはり子どもたちに広さがある場所で遊ばせることができるのは良いですし、バスケットボールも今やっていて、ちょっとゴールがあるだけでも良くて、「ここに来てやろう」となると思うので、何となく開けた場所というのが理想です。

**教育長:**今村長が考えている学校にかかわる施設等に関しては、とりあえず建て替えるとかではなくて「長寿命化」ということを言っていますので、いかに施設を長持ちさせるかというところに視点があたっているのも、そういう中で実際には教員住宅も考えないと、相当古くなってきていますので、そういうことも含めて、その1点だけではなくて教育にかかわる施設全体についてある程度見通しを作らなきゃいけないというのがあります。また皆さんにご意見等伺いながらやっていきく状況ですので、そのことをご理解いただいて、また色々なアイデアをください。よろしくお願いします。

**白井次長:**他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、続いて小学校長報告をお願いいたします。

### (3) 小学校長報告（近況報告、クラウド活用について報告）

**佐々木校長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**白井次長:**ただいまの小学校長報告について、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、続いて中学校長報告をお願いいたします。

### (4) 中学校長報告（近況報告、来年度の予定、施設管理について報告）

**白井校長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**白井次長:**ただいまの中学校長報告について、何かございますか。よろしいでしょうか。私の方から平和教育について、去年の満蒙開拓団から色々今年もやっていただいて、すごくありがたいと思っています。今教育委員会に市野川の久保田さんという方から、もう亡くなられているんですが祖父の少年兵

として出ていった際の服とか色々を寄付していただいたので、こちらとしてもどういう活用をしていったら良いか考えた中で、中学校ではそういう形でやっていただいているので、ぜひご活用いただければありがたいと感じました。その方が昔こうだったということを書き添えたものも残っているので、ご活用をお考えいただければありがたいです。

**白井校長:**久保田さんは話をしてくれる方ですか。

**白井次長:**久保田さん自身は亡くなられていて、整理をしていた息子さんとお嫁さんが捨てるに捨てられないということで、こちらの方にいただきました。実際その時のお話をしていただくのはその方はできないんですが、この間も吉原さんに戦時中のお話をしていただいたではないですか、それとは少し違うかなと思いますので、ご活用いただければと思います。

**白井校長:**峰田先生がどう言うかわからないんですが、ただ物があるだけだと「大変だったな」というくらいにしか思わないんですが、久保田さんにかかわるいわれであるとか、そういうものが何かあれば、先生自身が説明するのはたぶん嫌だと言うと思うんですが、久保田さん自身の体験や人となりがわかるような説明があると、子どもたちも気持ちを寄せていくことができると思うので、そういうところまで個人のことわかるような状況の説明をしていただければ良いと思います。

**白井次長:**また物を見ていただいてお話をさせていただければと思います。

**白井校長:**ただ物を見るだけというのはあまり効果が無いと思うので、また相談させていただければと思います。

**佐々木校長:**ちょうど今の中2の子たちは小学校の修学旅行で阿智の満蒙開拓記念館に行って、麻績で実際に満蒙開拓に 53 人だけ、行ったという話も聞いてきているので、そこで繋がっていけば良いなと思いました。

**白井次長:**他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議事項に移ります。

#### 四 報告・協議事項（加瀬教育長）

##### (1) 第7次 麻績村振興計画について

**教育長:**次長からお願いします。

**白井次長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**教育長:**大分詰まってきた状況です。2月8日に第4回審議会ということで、ほぼそのところで固まるだろうという予定です。もしお気づきの点等あれば明日まででしたら反映できる部分があるかと思っておりますので、見ていただいてご意見いただければと思いますが、何かございますでしょうか。また中身等見ていただきながら、もし何かありましたら明日までは意見とし

て対応できるかと思いますので、次長にご連絡ください。よろしくお願  
いたします。ありがとうございました。それでは、次に移ります。

## (2) 令和 5 年度 教育委員会関係予算要望について

**教 育 長:**次長からお願いします。

**白井次長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**教 育 長:**今説明いただいた通りですが、何かございますでしょうか。

**小山職務代理:**会計年度任用職員の人件費ですが、例年通りというところとい  
うことで、国の給料を上げるという動きの中で少しは上がっているんですか。

**白井次長:**会計年度任用職員の給料表がある中で職務区分が分かれています。基本的  
に講師の先生方は毎年 1 級ずつ上げていくよう対応しております。また、  
その他の調理員や用務員の方につきましても同様ですが、職務区分の範囲  
内の中での上限額がありますので、そこに行った方についてはそこでスト  
ップとなります。ですので、職務的に内容によって昇給に個人差が出てく  
るところです。毎年最低賃金が上がっておりまして、最近は最低賃  
金の上げ幅が非常に大きくなっておりまして、通常ですと 9 月にまた最  
低賃金が上がって 10 月から適用されるという形になりますが、それを見込  
んでの昇給となっております。ただ、まだまだ額が高いかと言えば、なか  
なか厳しいところもあるかなというところではあります。

**教 育 長:**他いかがでしょうか。本当にここへ来て電気料等が一気に高騰したとい  
うことで、全体の計画していたことが最初と変わってしまうことが出てきま  
す。査定のところでは園長先生、両校長先生にも来ていただいて説明をし  
ていただきながら進めていきましたが、やはり難しい部分もありまして本  
当に申し訳ないところではありますが、また何かありましたらお伝えいただ  
ければと思います。予算に関してはよろしいでしょうか。ありがとうございました。  
それでは、次に移ります。

## (3) 学校への脅迫 FAX について

**教 育 長:**次長からお願いします。

**白井次長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。各学校からお願いします。

**白井校長:**中学校は、25 日は FAX の線が繋がっていなかったのですが、実際には来ていま  
せん。聖南中の校長先生から連絡があり、生坂の方にも連絡をして校長先  
生に聞いてみたら、両校 FAX が来ていて、安曇野にも来ているということ  
で、当然筑北中にも来ているだろうということで対応しました。職員を集  
めて情報提供し、夕方下校時に巡視、FAX に記載された時刻の 11 時 45 分  
頃とそれ以降不審人物が来ないか確認し、教育長に連絡して、警察等にも

連絡をして対応していただいたところです。1 日目はそれで終わったんですが、2 日目は 0 時 15 分にまた FAX が来ていました。それから 8 時 10 分にも来ていて、同様の対応をしました。塩尻市等は 2 日目だから、1 日目と同じだからということで対応をしないところもあったんですが、教育長さんの指示を受けてしっかりと、何かあってはいけないということで学校全体で共有して対応したところです。

**佐々木校長:** 小学校は、27 日朝 5 時 49 分に FAX が入っていて、これまで連絡があって確認もしていましたので、教育委員会へ連絡し、校長会へも報告をしました。保護者への対応はオクレンジャーによる配信ということでお昼に出しました。学校の方は、児童へは職員連絡会を通して、教職員が各学級で指導をしてもらうように、指導事項を確認し、一応「危害を加える」という文があるので、校舎・玄関の施錠の確認や、不審物がないか確認をし、子どもたちの下校時にそれぞれの方面へ職員が分かれて巡視をするという対応をしました。特に大きなことはなく、お家の方たちも色々報道等でのことについて、中学であったということも知っているもので、大きな混乱はなくできました。その後は来ていません。

**教 育 長:** 教育委員会としては、学校の方と連携を取って、ないだろうとは思いましたが「きちんと見回りをしてほしい」ということをお願いしました。教育委員会でも青パトで見回りをしました。その後でしたが、どういう対応をしたかについて信毎から取材があり、それぞれのところでは対応が違って、相手にしないという対応のところもあったようですが、麻績村としては何かあってもいけないのでということで、そういった対応でという形にします。今後もこういったことがあれば同じ対応で、もしもの時のためということで、現在お話したような内容については実施したいと考えているところです。この件について何かございますでしょうか。

**小松委員:** これを見る限りはお金の要求だったり、騒がせたいのかなと感じられますが、実際問題、本当にこれからどういうことが起こるかわからないような時代なので、避難訓練ではないですが、もしそういう風に不審者が校内に侵入してきたらとか、そういうようなことも想定しながら、それを防ぐための用具なりの備品確認や、そんなようなことも考えていかなければならないのかなという気がします。さすまたのようなものはあるんですか

**佐々木校長:** 各教室にあります。あるけど、実際には警察にも「そんなの使えないよ」と言われています。

**白井校長:** 逆に取られて抑えられてしまうこともあります。でも不審者対応の意識は大事だと思います。

**小松委員:** 特に麻績村は学校を囲っていないし、誰も警備もしていないので、田舎だからと言っても心配があります。

**白井校長:** そこでコミュニティスクールとか「学校をオープンにしていきましょう」

というのとは裏腹な場面があって、そういうところで柵を作ってしまうと誰も入ってこられなくなるし、でもオープンにはしないといけないしということで、信頼関係が重要になるんですが、麻績村はそんなに問題がないと言うと危機意識がないかもしれませんが、麻績村は顔とかがわかっているから良いけど、他の大きな学校では難しいところがあるかなと思います。

**教育長:**そこら辺の対応マニュアル的なことに関してはやはり必要だと思います。いかがでしょうか。

**小山職務代理:**子どもが駆け込める「安心の家」はだいぶ前をお願いしていて、今話もう空き家になっている家や、年寄なので駆けこまれてもどうしようもないという家もあるかもしれないので、その辺も見直ししたり、お願いしているお家にも周知をしたりすることが必要かと思います。

**小松委員:**子どもたちにも声を掛けておけば、「本当に困ったことがあれば近所の家に飛び込みなさい」とかよくよく言って聞かせておけばまた違うと思います。

**佐々木校長:**「安心の家」の確認は地区児童会でということですが、やはり人口減少で地区児童会が無かったり、コロナ禍でできていないところがあったりしますが、そういうことの伝達はしています。「安心の家」も毎年5月頃に、警察のサポーターの方が担当されていて、確認に来ます。でも毎年減っています。本校は一昨年教頭全て確認をしてくださって、実際にはもういらっしやらないところがあり、一通り整理はしてあります。本当なら帰る途中の子どもたちをその家々に寄って「ここだよ」と場所を確認したり、以前はここもやっていたと思うんですが、今はなかなかできなくなってきているという現状です。

**白井校長:**今回の場合は全国的なことなので、直球で麻績村だけ狙うということはほぼないということで、念のためこのように対応しましたが、隣にもどこにも来ていなくて、麻績村だけとなると緊急性が高くなって、お家の方に迎えに来ていただくようになるとと思います。例えば強盗がどこかの家に入っていますという状況になれば、迎えに来ていただいたり、学校の中で確保したりという対応になるとと思います。自分たちはそんなに大したことないという雰囲気を出しましたが、子どもの中には「怖い」と言って、「今日は登校を辞めます」と登校をやめる子が1人いたので、学校では危険を知らせることは大事だと思いますが、そういうこともあるんだなということが1件ありました。

**佐々木校長:**小学校は、保護者が「家まで送ってほしい」というご要望が1件ありましたが、我々としては念のための対応だったのでそこまでとは思っていませんでしたが、結局担任が送っていったという話でした。本当にこういうケースが来たら、今は迎えに来てもらうしかないと思います。たぶん兄弟関係は繋がるので、麻績村が狙われたとなれば一斉にどういう形で動いてい

くのか、前も少し話しましたが、保育園と小学校はすぐそこにあるので、車の動線を小学校だけで考えていても保育園も一緒に連動するとしたらどうなるのか、みたいなことは訓練をする必要がきっとあると今思っています。

**教育長:**他いかがでしょうか。

**高野委員:**何事も想定を考えるとやりきれなくなるというのはあります。最終的には子どもたちが子どもたち自身で、どこに避難するとか、犯罪だけでなく災害の場合も、いつ何があってもおかしくないの、まず自分の身を守るために子どもたちが行動するということをまず考えた方が良くと思います。さっきのどこかへ駆け込む等、一番最初にできることをまず頭に入れておいてもらうのが重要かと思います。大人は外に出ていたり仕事をしていたりするので、正直宛にならないと思います。例えば近所の同級生の親御さんや近所の人協力体制も必要かと思いますが、考えていくと色々やらなければならないので難しいので、まずは子どもたちが自分をどう守っていくかということ、学校も親御さんもわきまえてもらえるようにしていくのが一番良くと思います。情報網としては、オクレンジャーとかクラウドとか、とても良いと思います。クラウドはこちらからやらなければならないですが、オクレンジャーなら皆さんに通達できると思うので、第一報は大事かと思うので、フル活用をお願いします。一時、10年前くらいに「不審者が出た」と連絡が学校から来ていたんですが、具体的なことがわからなかったの、私たちは子どもたちにどういう風に対応したら良いか分からないので「とりあえず帰宅」ということだけだったんですが、バス通学は困っていました。また、登下校時の場合は、親には連絡が来ますが、子どもたちには全然連絡が行かないので、そういう対応が困りました。なので、例えば外の放送等で「下校中の皆さん、ここに避難してください」とか「学校に戻りましょう」とか伝えることが大事かと思います。連絡方法が大人の中で確立されていないという問題があったので、何かあった時に真っ先に対応する方法を大人で検討できたら良いと思います。

**教育長:**ありがとうございます。他いかがでしょうか。事件、事故、災害、今実際に何が起こるかわからない状況ですので、自分の身は自分で守るということに関しては、常々学校、保育園はなかなか難しいですが、そういった啓発に関してやっていただきたいと思います。また引き続き何か起こる可能性がありますので、十分注意をしながら、近隣とも連携を取って、足並みを揃えてやっていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。また何かありましたらお願いいたします。それでは、次に移ります。

#### (4) 子ども議会について（報告）

**教育長:**次長からお願いします。

**白井次長:**お願いします(以下、資料に沿って説明)。

**教育長:**子どもたちよく勉強して、さらに代案みたいな形まで用意してやっていたので、本当に良かったと思います。できることに関しては、こちらの方でも動いていきながらということですが、やはり先程言った一番最初の県道にかかわる横断歩道の設置は、こちらの方として要望はするものの県の事業ですので、でも直線で100mないと設置できないという基準があるようで、なかなか難しいということもありますが、実際に横断歩道ではなくて、横に看板をつけるとか代案でできるもの等も含めて、また見ながら検討をしていきたいと思います。よろしくお願いします。聖高原ホテルに関しては、解体の方向でということ動き始めておりますので、解体後どういう整備をしていくかということも考えながらやっているところで、具体的に決まっている訳ではないですが、オートキャンプ場にしたら良いのではないかとか、色々な意見が出ている状況ですので、進んでいくかとは思いますが。先程中学校の第2グラウンドの話題が出ましたが、公園等に関しては全体で考えていかなければいけないのと、実際に教員住宅等を含めてどうしていくかという大きな形でありますので、検討課題になっていくかと思えます。本当に子どもたちよく頑張っていたので、褒めてあげてください。よろしいでしょうか。それでは、その他に移ります。

#### 五 その他

##### 1) 各委員から

**教育長:**それでは各委員の皆様から一言ずつ何かございましたらお願いしたいと思えますがいかがでしょうか。小松委員からお願いします。

**小松委員:**学校給食時は今も黙食という形でやっているのでしょうか。マスクを取れる時代が来れば良いと思うんですが、マスクをしていることによって表情が見えづらかったり、脳に影響がどうもあったりすると聞かれます。表情が見えて、会話ができて、相手とのコミュニケーションを顔を見ながらやり取りできる機会が今本当に奪われている、そのことによる子どもたちへの影響というのもそろそろどうなんだろうと心配していかなければならないと思えますが、とりあえず学校給食時に今は緩和されていますか、外して多少の会話は良いとか、どういう風になっていますか。

**教育長:**実際に「マスクを外して良い」という方向が出されているんですが、子どもたちの状況はわかりませんが、多くのところでは会話をしないで黙食の

習慣がもう定着してしまっていて、給食時にあまり会話をしながら食べるというような状況がないという報告がありましたが、小学校はどうか。

**佐々木校長:**給食は黙食です。一番リスクが高いところで、わざわざそこで「喋って良いよ」という必要はないだろうと思います。もちろん普通の授業の中で普通に話もできているし、休み時間も普通に過ごしています。マスクを取るという場面が、給食の時に取る前に、まず授業中に取る方がいつできるかというのが、まずそっちが先だと考えています。

**教育長:**中学校はどうでしょうか。

**白井校長:**中学校は基本黙食で、佐々木校長先生が言ったように一番飛沫が飛ぶところを「良いよ」と言う訳にはいかないということで、今もそのままにしています。でもコミュニケーションはそんなに、表情見せてのコミュニケーションはできないけど、子どもたちはそれぞれ話をしているので、コミュニケーション的には悪くないと思います。人によるので、近寄って行く子もいるし、離れて見ている子もいますが、授業中は向かい合っていてやっています。逆にどうですかね、マスク取ってみるかどうか。

**教育長:**基本的にはそれぞれに任せる形でということになるかと思いますが、この後卒業式や何かの時にどうするかということも出始めているところで、基本的には「取って良い」という方向へ流れていますし、給食等についても「良い」ということになってはいますが、逆に子どもたちの方が習慣づいていて、例えば給食を楽しく会話をしながら食べるというような状況がなかなか生まれえないというのが全国的に報告は聞いています。

**小松委員:**一番リスクはありますもんね。保育園はどうか。

**塚原園長:**保育園は黙食は厳しいですが、それでも「大きな声を出して喋らない」とかということなんです。「絶対に喋っちゃいけない」というところでの食事ではないです。

**小松委員:**マスクで表情が見えないということについて、たぶん月齢が小さいほど影響があるのではないかと思います。

**塚原園長:**保育園では基本マスクをしてはいけませんし、3歳以上児も園内ではマスクはしないです。

**小松委員:**保育士はどうか。

**塚原園長:**保育士は外さないです。一番リスクがあるのが食事で、保育士が雇ってしまおうとどうしようもないので。大きいクラスだと一方方向を向いて、ある程度保育士も離れているので一緒に食べられるんですが、未満児さんは全部子どもに与えてから保育士は別に食べるという形でやっています。

**小松委員:**子ども同士はマスクなしですか。

**塚原園長:**子ども同士はマスクなしですね。例えば小学校に体験に行くとか、外に出るとか多少危険性があるところではマスクをしますが、基本マスクはしないです。

**小松委員:**わかりました。自分でもマスクに慣れちゃうと、人と接するときにはマスクしているからちょっと安心感というか、そこに甘えている自分がいて、取った時にちょっと緊張すると思います。小さければ小さいほどきっと影響があるのかなと思います。ありがとうございました。

**教育長:**日本の国民性もあるんでしょうけど、世界と比べると全然違う感じはするかなと思います。宮下委員お願いします。

**宮下委員:**1月は今回の脅迫 FAX だとかあってかなり動揺しました。オクレンジャーで配信していただいたけど、受け取り方もそれぞれで、実際どういう風に行動したら良いか考えた日々もありました。そんな中今日のお話を聞いて、中学生と保育園児の関わりだとか、来入児の子どもたちが小学校に来てという関りを見ていると、麻績村は温かいなとすごく感じました。保育の現場の先生たちの感じているような先程の細かいお話も、そういう声を大事にしてもらいたいと思いました。子ども議会でも「そういうものがほしい」という要望が現実になっていきそうな部分を、やはりキャッチしてもらえたら良いのかなと、保育や教育の充実に繋がっていくのかなと思います。小学校はクラウド活用ということで、この1年で本当に授業だけではなくて、全体のバランスを見てもデジタルが増えているという印象がすごくあって、メリットもいっぱいあると思うので、私たち保護者も活用に取り遅れないようにしていかなければと、なかなか時代も変わってきていて、電話で受けることも難しい内容が出てきたりすれば、これも一手あるのかなという印象で今日は聞いていました。中学校は、先日施設に蔵書点検に行かせていただいたんですが、さっき校長先生が仰ったように、物の管理だとか活用というところで、筑北村との学校組合解散があってからその後がそのままだったんだなという印象がかなり強くて、施設だけではなくて中にある物の整備もかなり必要になってくる、そういう検討をしていく時期になってきたのかなと感じました。先生方の負担軽減にも繋がるかなと、そのまま筑北村と一緒にあった頃の数のまま施設に物があるということも、村長さん「長寿命化」と掲げているので、その辺りも手を入れていかなければいけない時期になってきているかなという印象を受けました。満蒙開拓の資料、図書館にたくさんありますので、ぜひまた利用してほしいと思います。

**教育長:**ありがとうございました。高野委員お願いします。

**高野委員:**今コロナ禍で交流が難しいとは思いますが、障がい児教育で具体的な取り組みで、何か心掛けていることはありますか。

**教育長:**各学校からお願いします。

**佐々木校長:**本校の場合は車椅子のお子さんだったりということで具体的に関わりがありますし、副学籍のお子さんとは交流の機会を、というのがありますが、コロナ禍でとても難しくなっているなと感じています。学校とすれば、

車椅子のお子さんがここにいるということで、そういう友達に対してどういう風に接したら良いかとかは、子どもたちはその場で学んでいるなど感じています。

**白井校長:**障害児教育について、良い意味で何も考えていません。個別にできるだけ対応して、その子にあった対応を、と考えているので、当然障がい者に対してとか、人種とかそういうようなところは人権教育で話をしますが、特に何か意識してというようなところはあまりないです。その子に応じてということ意識して先生たちもそれぞれに対応しています。

**高野委員:**今養護学校のニーズがある子との関わりについて、中学校はないと思うので、それを考えるのは少し難しいかなと思います。小学校の方では養護学校に行かされている麻績村の子がいると思うんですが、そういう子との関わりは、副学籍を取ったというところで、以前は副学籍導入をきっかけに年何回か交流をやっていたとは思いますが、今は難しいとは思いますが、実際に麻績村に住んでいて、保護者が色々な情報を知りたいということがあるかと思います。兄弟が地元の学校にいるというご家庭もあると思うので、そこから情報を貰うというのは良いかもしれませんが、障がい児のいる家庭、例えば兄弟もそうですが影響がやっぱり日々ある状況だと思います。学校に何かしてほしいという要求ではないんですが、兄弟がこれから成長していくにあたって、障がいのある家族を持つということは本当に影響ないと言ったらそういうことではなくて、逆に影響があることになっています。障がいが重くなることもあるし、良い方向に持っていける家庭もあると思うんですが、学校は違うけどここに住んでいる障がいのある子に、小学校から声を掛けてもらえると思うと思います。学校が違うために後になって遠慮をすることになってほしくないと思います。今養護学校に通っている子がどういう状況か把握してもらって、今後交流に繋がるということであるんだったら、今から考えておいてもらいたいです。考えていないわけではないと思うんですが、交流の機会について全然お知らせが来たことがないということはあるはず、例えば家庭の事情で「うちはまだ不要です」とか、地元の学校に交流の機会あると言っても遠慮する家庭はあるけど、機会は作ってほしいと思います。それは拒むから機会を作らなくて良いということではなく、コロナ禍だから機会がないで済むことではないので、やはり関わりを持ってほしいと思います。難しいとは思いますが、今はどうでしょうか。

**佐々木校長:**私はそういうお子さんに対して居住地校交流とかもあって交流してきているので、積極的にできることであればやっていこうというスタンスです。これは学校全体がその意識です。現在2名小学生の年齢のお子さんがいて、そのうち1人は副学籍を希望しない、放っておいてもらった方が良いという感じですが、もう1人は副学籍に入っていますが、実際には今年養護学校

の方がとても楽しいという話の中で、具体的に小学生との交流をしようという話に具体的に行きませんでした。教頭は時々お知らせ等を届けに行ったり学校の情報はお渡しするようにしているんですが、この間行ったときに「来年度は副学籍は不要かな」という話を少ししたということも耳に入ってきていますので、そういうことを大事にしながらやっているという姿勢でいるつもりであります。やはりご家庭の思いは難しいものがあって、なかなかこちらからそこへ入り込もうとしても「それは不要です」と言われてしまうと、ちょっと手の出しようがないので、それこそキッズサポート会議の中で村の子どもたちをどう支援していくかということで、そこを把握しておいていただいて上手く学校と繋いでもらえるとありがたいと思います。

**高野委員:**ありがとうございます。

**白井校長:**副学籍は取ったらずっとですよ。

**佐々木校長:**毎年希望確認しています。

**白井校長:**交流するかどうかというだけの確認で、学籍はここであって、養護学校にも当然学籍入っているんですよ。

**佐々木校長:**「副学籍希望しない」となると、私の認識は皆副学籍に入れるものだったら、村は副学籍にも入れないということになっているので、実際に1人は副学籍に入っていないです。

**白井校長:**副学籍はその地域のところにあるという認識ですが、違うんですね。

**佐々木校長:**諏訪や上伊那と雰囲気違います。

**白井校長:**前に居たところは確実に養護学校に行くけど副学籍で入るから、希望があれば入学式に呼ぶとか交流や連絡をどうするかとか、そういうのをやっていたのでそのつもりではいました。副学籍はここにあった方が良いでしょう。

**佐々木校長:**成人式に呼ばれないとかそういうことがないように学籍を残しておくところからスタートしていると思うので、私は上伊那にいましたが、上伊那はとても進んでいましたが、ここは少し雰囲気が違うし、養護学校の居住地校交流みたいな考え方も学校によってだいぶ違う感じはしています。

**白井校長:**卒業証書も書いて持って行ったからね。でも2回目の時は「嫌だ」と言われたから行かなかったけど、「卒業証書どういう風に届けますか」と聞いたら「家に送ってください」と言われたこともありました。

**高野委員:**中信地区は遅れているかなと、上伊那とか南信の方が進んでいる、東信の方もまあまあ進んでいるかなというイメージがありますが、雰囲気が全然違うと思います。安曇でも大町でも副学籍をあえて取らないという方は結構いるかと思いますが。副学籍が良いかどうかというのは家庭による。卒業式2回行かなければならないから面倒臭いから受けない家庭もあります。

うちは副学籍良かったと思いつつ、卒業式や入学式に2回出るとちょっと辛いというのは正直ありました。でも子どもの顔を見ると、地元で一緒に育ってきた子たちと、とても嬉しそうな顔をして交流していると、親の労力が少し大きくなるだけで本当に良かったと思っています。副学籍を受けない人もいる訳ですが、受けないから放っておこうと思いがちですが、何か関わりを持っていて、手を差し伸べたいと思います。二十歳の時に成人式に行かなくてもいいんですが、自分の名前が成人式名簿にないことがショックです。そこのところを行政に拾っておいてもらいたいです。そのうち村が不便だと感じると転居してしまう家庭もあると思います。障害のある子のいる家庭も住みやすいと思ってもらいたいです。私の願望です。何が良いかわからないんですが、手を差し伸べてあげたいと思います。行政にお願いするばかりでなく私たちも活動しなければいけないと思います。

**教育長:**ありがとうございました。

**白井校長:**学籍に入っていないから卒業生台帳にも載っていないということですよ。だからそれで二十歳の名簿にも載っていないということになってしまいうんですよね。でも住民の登録で調べれば良いですかね。

**教育長:**こっちは住民票確認しています

**佐々木校長:**今うちに副学籍で入っていないお子さんは兄弟関係があるので話はできますが、職員の中でも本当は副学籍の該当1名いるんですが、兄弟関係がないので知らないです、そういう人もいるということです。

**教育長:**漏れてしまって全く何も行かないのが一番危惧しているところなので、それぞれのところで気を使いながらやらないと、と思います。ありがとうございます。小山職務代理お願いします。

**小山職務代理:**長野市の青木島公園で騒音の問題があるんですが、けやき公園ではそういう話はないということで大丈夫ですよ。

**教育長:**特に聞こえては来ません。

**佐々木校長:**苦情はないと思います。そんなに騒いでいる子たちいないです。休みの日の天気良ければいっぱい来ていますが、そんな苦になるようなことはないと思います。

**小山職務代理:**せっかく整備して作ったものなので、近隣も含めて有効利用できれば良いなと思います。

**教育長:**ありがとうございました。事務局からに移ります。

## 2) 事務局から

**教育長:**1点お願いします。学校給食に提供している「はぜかけ米」についてですが、先日あさつゆの組合長の高山さんが見えて要望されたんですが、実は「はぜかけ米」が足りないということでした。簡単に言うと、実際に作っ

ておられる農家が少なくなっていて、今ふるさと納税の返礼品に出す分で精一杯だという話がありました。次年度は提供が非常に苦しい状況であるという話が来まして、懇談をしたんですが、何とか例えば特別給食というか、通常はもうしょうがないけど、月に1回とか年に何回か学校で特別献立みたいなものがあるから、そういうところで「はぜかけ米」ということで炊き込みご飯にするとか、味は全然変わらないのでそれでわかるか非常に難しいですが、何か工夫をしてそういう形で、「提供すること自体を辞めてしまうのではなく、継続してもらえないか」という話をしました。実際のところ本当にやる方が少なくなっていて、非常に難しいということがありましたので、「一応また定例教育委員会の方でも報告をして、そういう方向での、とにかく全部辞めてしまうのではなくて、何らかの形でできる範囲でということをお願いできれば」という話にしてありますが、そんな話がありました。いかがでしょうか。しょうがないといえましょうがないんですが。

**小山職務代理:** ルートは農家からあさつゆ、あさつゆから学校に納入しているんですよね。あさつゆに出している人は会員で、そういう人たちが出していると思うんですけど、なんで少なくなっているかと言うと、今年10月からインボイス制度、小口納税があって、そうすると米を出すにしても登録しなければいけないので、面倒くさいことをやるなら出さないということになってしまいうんです。作っている人を探して集めるのは良いんだけど、小口納税があると、とてもじゃないけど出さないということになってしまう。

**白井校長:** 学校給食に出せるくらいの米はあるのではないですか。

**小山職務代理:** 米自体はある。声を掛ければ集まるとは思うんですが、それを売るという形になると、小口納税の申告をしなければいけないという話になる。私もシェーンガルテンへ少し米を出しているんですが、シェーンガルテンの指定管理者の方でインボイスを登録してくれということが非公式ながら来ていて、そうすると年間100kg程度出して数万のお金をいただいているんですが、そのためにやるなんて面倒臭いなどというのが私の本音です。声掛ければ日向地区は結構まだまだやっているところもありますので、集める気になれば集まるとは思います。

**教 育 長:** 一応そういうあさつゆからの申し入れがあって、たぶん苦しいのだと思います。全部消してしまわずに、できる範囲でお願いしています。

**白井校長:** その分どこから仕入れるんですか。あさつゆがどこかからもらってくるということですか。学校給食会に頼むようになるということですかね。

**白井次長:** 地産は地産です。なので、あさつゆからコンバイン米に代わるということですか。あさつゆから来るのは変わらず、地元の米なのも変わらないです。

**佐々木校長:** 例えば今りんご等保護者の家とやり取りして買っているんだけど、同じように「はぜかけ米」あったら提供してくださいとやるということか。それ

なら良いですかね。

**小山職務代理:** 学校で直に買うとすれば、学校のお金を払う家はインボイスの登録業者でなければいけないので、村の会計の方で払うとすれば、村の会計室の方でそれに入れる可能性はあると思うんですよね。

**佐々木校長:** あさつゆに特別支援学級が商品を出すということもそうなるということですか。

**小山職務代理:** 個人的にはスタートしないのではないかと思うんですが、1000万とかそういう方は良いとしても、数万単位の家庭菜園の野菜をちょっと売るとかそんな程度の方までそんなことやるなんて言ったらとてもじゃないが流通が回らなくなると思うんですが。

**佐々木校長:** そんなことしたら収入源が断たれてしまう。

**教育長:** それは教育だから。一応そういう申し入れがありましたので、無理のない範囲でお願いしてございます。

**白井校長:** これは校長から伝えれば良いんですか、次長から栄養士に連絡があるんですか。

**白井次長:** こちらから連絡します。

**教育長:** 基本的にはこの前内々に話があったので、そうなるのであれば書面でお願いしますと話はしてあるので、正式に来たところでご連絡します。ありがとうございました。それでは次回の日程に移ります。

次回の定例教育委員会の日程 3月3日(金) 午前9:30～

**教育長:** 全体を通して何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

## 六 閉会（加瀬教育長）

長時間にわたり、ありがとうございました。以上で2月の麻績村教育委員会定例会を閉会します。